

あいさつ缶バッジを作り、町民あげてあいさつ運動を推進する

ねがい

〈目的〉

町内全体に元気で明るいあいさつの輪を広げ、大人も子どもも笑顔で互いにあいさつを交わすことを通して、人と人とのつながりを大切にする心身ともに健康な子どもを育てます。

つながり

〈内容〉

● あいさつ宣言の証として、缶バッジをつける

中学校では、「自分からあいさつします」、「相手の目を見てあいさつします」、「元気な声であいさつします」「誰にでもあいさつします」の4項目について、自分から進んで宣言した生徒には、あいさつ缶バッジを渡しました。現在7割から8割程度の生徒がつけています。作成したバッジは1000個で、町内の小学校にも配布しました。各小学校では、学校の実状に応じて、缶バッジを利用しています。たとえば、ある小学校では、「あいさつの達人」の資格を与えられた児童だけが、称号の証として缶バッジをつけています。

● 町内一斉あいさつ運動の日

毎月5日と20日を「あいさつの日」と決めて、町内保育所、幼稚園、小・中学校の子どもたちだけでなく、地域の人たちも巻き込んで、三野町をあげてあいさつ運動に取り組んでいます。子どもの生活記録を見ると、「知らない人に勇気を出してあいさつしたら、あいさつを返してくれて、とてもうれしかった。」等、あいさつに関する感想が増えています。

● 児童会と生徒会のタイアップ事業の推進

合同のあいさつ運動を契機に、小学校の児童会役員と中学校の生徒会役員が定期的に集まって、様々な課題について話し合いをすることになりました。その中で、あいさつ運動の輪を一層広げるために、缶バッジを追加注文して、地域の大人たちにもつけてもらおうという意見が出されました。その資金作りに、各学校でアルミ缶のリサイクルをすることになりました。ほかに、小6と中1の子どもたちの交流の計画が進んでいます。



【あいさつ缶バッジをつけた中学生】



【あいさつ缶バッジのデザイン】

〈成果〉

小・中学校の子どもたち同士の交流は、今まではあまりありませんでした。ところが、缶バッジを起爆剤としたあいさつ運動の推進によって、小・中学校の児童会・生徒会役員の交流が進み、そこからさらに大きな交流へと発展しつつあります。今後は、地域の人たちともタイアップして、人と人とのつながりを大切にする運動を推進していきたいと考えています。

高まり